愛光NEWS

2019年11月

2019（令和元）年12月13日発
（編集）愛光本部総務部
（TEL）043－484－6391
（メール）http://www.rc-aikoh.or.jp/

今年の秋は、西日本、東日本とも観測史上最も”暑い秋“だったそうです。暑い秋だったからでしょうか、すぐに冬の到来を感じてしまいました。四季の良さが薄くなった気もしますが・・

さて、本年も残すところ２週間あまりとなってしまいました。平成から令和へと年号が変わりさまざまな祝賀行事が行われました。時を同じくして、法人では法澤奉典前理事長が退任され、西原弘明新理事長へバトンタッチ、新体制でのスタートをきりました。ところで本年の新流行語大賞は、『ＯＮＥ　ＴＥＡＭ』だそうですが、愛光も新体制のもと“ワンチーム”で、福祉サービスの推進をしていければと思っております。よろしくお願いいたします。

少し早いですが、皆さまよいお年をお迎えください。

□事業経過など（2019.11.1～）

月/日（曜）	記　　事
11/2（土）	ＲＵＮ伴 2019in 佐倉
3（日）	根郷福祉まつり
6（水）	業務執行理事会
7（木）	管理者評価面接
8（金）	式典実行委員会・総合相談センター研修会
10（日）	*天皇皇后祝賀御列の儀*
12（火）	内部統制構築委員会（第６回）
13（水）	施設長会議・サービス責任者会議・愛光千視協グループ法人協議会
14（木）	千葉県社会福祉大会
15（金）	法人事業所移転 25 周年・はちす苑開設 20 周年記念行事
19（火）	千葉県監査（佐倉事業所３施設、よもぎの園）
20（水）	千葉県監査（はちす苑）・業務執行理事会・地域食堂ともいき
24（日）	*ローマ教皇被爆地長崎広島訪問*
25（月）	内部統制構築委員会（第７回）
27（木）	感染症対策研修
30（土）	理事会
12/2（水）	*新語・流行語大賞 2019「ＯＮＥＴＥＡＭ」に決定*
12/3（火）	～7 日（土）韓国ラファエルの家へ職員派遣研修（職員５名）
12/8（日）	評議員会

□これからの予定

12/15(日)	後援会主催ほっとタイムコンサート（パンフルート演奏 in 本館）
1/25(土)	理事会
2/9(日)	職員実践発表会

■おもな出来事

□千葉県指導監査

千葉県印旛健康福祉センター監査指導室による監査が、11 月 19 日（火）に、ルミエール、めいわ、リホープ、佐倉市よもぎの園、11 月 20 日（水）に、高齢者ケアセンターはちす苑について実施されました。当日の実施指導では、主に各種文書の整備について口頭での指導がありました。現在までに通知されているところでは、佐倉市よもぎの園で、「利用者に対して前年の平均工賃額と当年度の目標設定工賃額を文書で通知すること」と指摘されています。他は指摘のあった後、次回でお伝えします。

□理事会・評議員会開催

11 月 30 日（土）理事 10 名、監事 1 名（1 名欠席）の出席により、本年度第 5 回の理事会を開催いたしました。主な議案は、本年度第 1 次補正予算案でした。その他、事業計画の進捗状況について、管理者より報告がありました。当日は、会長ほか 3 名の顧問の方にも出席いただきました。

評議員会は 12 月 8 日（日）に評議員 12 名の出席によって開催いたしました（本年度第 2 回）。議案は第 1 次補正予算案でしたが、前回 6 月開催からの事業経過及び各事業の事業計画の進捗状況の報告を行いました。質疑では、主に今秋の台風や豪雨に対する法人の対応や介護事故等について関心が寄せられました。

□韓国ラファエルの家訪問研修

12 月 3 日（火）～7 日（土）まで、かねてより交流のある韓国ラファエルの家に障害者施設の主任を中心とした 5 名の職員が訪問してきました。韓国は、この時期大変寒くラファエルの家近辺もマイナス 10 度と極寒だったようです。しかし、建物内は床暖房（オンドル）の装備で寒さはなく、それよりも丁寧な歓迎ぶりに人情味と温かさを心から感じたとのことです。職員と利用者との関係では、家族的な接し方や丁寧な言葉使いなど学ぶことも多かったようです。法人では、職員実践発表会（2020 年 2 月 9 日開催）時に、ラファエルの家訪問報告会も併せて行うことにしております。ぜひご参加ください。

□愛光後援会「愛の灯台基金」新会長就任

先月お伝えしました後援会「愛の灯台基金」山岸洋子会長の訃報に伴い、会長が不在となることから法人では新会長の人選を進めていました。このたび新会長として佐倉市民生児童委員協議会長小林眞智子様に委嘱することにしました。小林様は、愛光の評議員として 12 年間に渡り法人事業を支えていただき、現在は評議員選任委員も務められるなど、法人とは深い関わりがあります。また、地区社協の理事、民生児童委員活動等地域のさまざまな活動をされ、“地域社会の福祉文化向上”を推進する後援会会長にふさわしいお方だと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

■月報から

□秋の外出行事

〈家族の地元へ／ルミエール〉

11 月 22 日（金）横浜中華街まで利用者、職員計 6 名で出かけた。今回特別に神奈川にお住まいの利用者家族をお誘いし現地で合流、おそらくご姉妹にとっては十数年ぶりに揃っての外食を楽しまれた。なかなか面会に来ることができない家族にとっては、家族の地元で合流できるようなイベントは貴重な機会である。このような企画を来年度の計画に本格的に取り入れてみたい。

〈芸術文化にふれて／めいわ〉

23 日（土）女性利用者 13 名が、佐倉市立美術館で開催されている『小林ドンゲ展』に出かけた。小林ドンゲは、戦後日本を代表する女性銅板画家。障害者手帳所持者は無料ということで、気軽に芸術に接する機会となった。視覚障害のある利用者には、晴眼者が説明するという優しさも垣間見られた。2 日前から降り続いていた雨で客足も少なく、ゆっくり絵を鑑賞することができ、美術館のカフェで一休みしてからめいわに戻った。

〈サイトワールド／リホープ〉

1 日（金）錦糸町で開かれた視覚障害者に特化した福祉機器展であるサイトワールドに利用者 2 名、職員 3 名が出かけた。特に注目したのは、最先端のＡＩを活用し、新聞や郵便物に記載された活字はもちろん、色や物、人の顔を認識して音声で知らせてくれるオーカムマイアイ。100 円ライター位の大きさの本体を眼鏡のツルに取り付けて使用、価格は 60 万円。視覚障害者にとっては魅力的な機器だが、実際には手が届かない印象。その他、テレビの音声読み上げ機能や遮光眼鏡等、それぞれ興味を惹かれるものは違ったが、いろいろなものを見て回ることができた。リホープとしては数年ぶりの参加となったが、新しい情報を知り視野を広げるためにも時々参加したいと思う。

〈利用者の声に耳を傾けて／はちす苑〉

特別養護老人ホームでは、上半期 3 回、下半期 3 回の計 6 回、毎回 4 名ずつ計 24 名の利用者の方が日帰り旅行に出かけている。今年は「牛久大仏」「あやめ祭り」「成田山」「コース料理」「ふるさと広場」「大きいデパートでお買い物」と日頃の利用者の方の声に耳を傾け行先を決定。さまざまなプランでの外出を企画して、たくさんの思い出を作ることができた。

□総合相談センター研修会「発達凹凸（障害）の部屋へようこそ」

8 日（金）“目に見えない障害”の当事者として活動されている櫻井栄理氏を招いて、研修会を実施。櫻井氏は、お子さんの障害、ご自分もアスペルガー症候群、ＡＤＨＤと診断されたこと、幼い頃から周りと違う行動をとっていたことなど、生活の中での凹凸な部分や困難さについてありのまま話された。当事者としての想いや苦労を知ることで理解が深まり、より良い支援につながるヒントをたくさんいただけた。当日は、障害や高齢者のサービス事業所、相談支援専門員やケアマネジャー、保育士等専門職 43 名が参加した。後半はグループワークを行い、発達凹凸（障害）がある方に寄り添う工夫を考えた。多職種での話し合いができたことでさまざまな視点からの気づきがあった。

（総合相談センター所長　森由美子）

□発達障害のある当事者が働く上で大切にしていること

地域精神保健福祉機構（COMHBO）の研修会に参加した職員より研修報告があった。一般企業で就労している発達障害のある方が登壇し、働く上で気をつけていることを発表する場面があったという。それは次のようなものである（自分が気づかない不調サインに気づく/人に頼る練習をしておく/倒れる前に SOS を出せるようにする/重要な書類は上司にチェックしてもらう）等々。あくまでも登壇者の経験であろうが、障害のある人の“働く”を考えるとき、よく語られるのは『職場側』の障害特性への配慮という趣旨である。しかし、『当事者が』うまく働き続けるために自らに課すポイントは、まだまだ職場側に知られていないようで、知っておく必要がある。「共に働く者」という共通の理解の上で、両者が互いの努力と配慮の例を知ることで、多くの事業所で、障害のある人と職場側が無理しすぎることなく働き続けれられる環境づくりを目指せるのではないかと感じた。　　（ワークショップかぶらぎ主任　宮部和樹）

□法人の強みを活かして

当月から“よもぎの園”と“はちす苑デイサービス”の併用を始めた利用者がいる。66 歳になりＡＤＬの低下も現れ、生活の場を検討する段階に入った方である。働きたいという気持ちを尊重しつつ、本人が不安なく“次の生活の場”に移行できるよう、相談支援事業所と検討を重ね「共生型」サービスを実施しているはちす苑を利用することにした。実際に利用した本人からは、「温泉に入った。カラオケやった」と楽しいひとときを過ごせたようで、次の利用を楽しみにしている様子であった。今後も同様のケースは出てくると思うが、法人のスケールメリットを活かし、利用者の状況に合わせ間断なくサービス提供し生活安定につなげていきたい。;

＊共生型サービスは高齢者や障害者が同一事業所でサービスを受けられること（佐倉市よもぎの園主任　近藤真一）

□それぞれの楽しみへ　ＧＯ！

学校の振替休業等を使って、各学童でそれぞれの楽しみを求めてバス外出を実施した。弥富学童は、千葉市科学館「きぼーる」へ。行く前から子どもの期待は大きかった。食事の際など職員はドキドキしたものの、子供たちは気に入った場所を見つけては不思議な世界観に浸ったという。帰所後はその話でもちきりに、保護者にもお土産話をしていた。保護者からの感謝の声が聞かれた。

寺崎・大崎台は合同企画「ボウリング or 映画鑑賞、君はどっちを選ぶ？」とし、総勢 75 人を 2 つに分けた。ユーカリが丘のボウリング場の一部を貸し切り、学童コンペを実施した。初めての経験だった子どももいたが、うまくいってもいかなくても大きな声を出し発散できた様子。映画は、子供向けの企画がない時期に重なり、場所選びに苦戦。結果幕張新都心の映画館に出かけた。バスで高速に乗ったり、ショッピングモールの中を歩いたりしたことも含め、「みんなで」が楽しい様子だった。映画も前のめりになりながら集中して鑑賞していた。「次年度も計画してほしい」との声が満載で、まだ入所前の弟妹たちからの期待まで集まって、うれしい悲鳴となった。（他の学童は冬休み春休みに計画）　　（学童保育所主任　齋藤理江）

■職員状況（１１/.30現在）

	人　数	前月比
正職員	１６１	
サポート職員	４０	
非常勤職員	１５６	―1
計	３５７	－１

○採用　１名（パート）
○退職　２名（パート）